

## 第 7 期介護保険事業計画策定に向けて

本年 3 月開催の介護保険専門分科会、企画・調査部会での議論において、委員の皆様よりいただいた意見は以下の通り。

### ○ 自立支援・介護予防に向けた取り組みの推進

- ・ 地域住民が自分で自分の生活を、健康を考えていくようにしていくことが重要。
- ・ 無関心な方に健康について関心を向かわせるということが大切。
- ・ 団塊の世代とともに、もう少し若い世代にも関心を高める対策を。
- ・ 介護予防の活動をどこでやっているか知らないから、参加しない方が多いのではないかと。「地域のどこで何をやっているか。」の普及を。
- ・ 高齢者向けに、座って楽しくできる簡単な体操を提案いただきたい。
- ・ 神戸には伝統的な「神戸体操」もあるので、児童を含めて健康寿命を伸ばすという運動に結び付けていければいいのでは。
- ・ 地域の健康特性の捉え方をどのように考えるべきか（個体差の集合によるものか、地域での社会資源の状況の違いによるものか。中学校圏域で捉えるべきか。）。
- ・ 総合事業は、専門職も含めて、医療と介護の両面から取り組んでいってもらいたい。

### ○ 認知症施策の推進

- ・ 認知症になって困っている状態になってからフォローするのではなく、その手前の段階で情報が行き渡るようにしておくこと。
- ・ 認知症のステージごとに、どのようなサービスが受けられるのかという絵があったほうが分かりやすいのでは。
- ・ これからを担っていく子供たちにも認知症に関する（学校）教育を。
- ・ 認知症の方のためのハザードマップのようなものを作成してはどうか。

### ○ 在宅生活の継続に向けた支援

- ・ 地域の方々と一緒に在宅生活の継続に向けた支援をしていくという方向。介護が必要になっても気軽に助け合いができるような、神戸市なりの啓発活動があったらよいのでは。
- ・ 来年度、医療介護サポートセンターが全ての区で開設される。機能を充実していくことが重要。
- ・ 病院、施設の間で情報の共有を進めていく必要がある。
- ・ 定期巡回サービスと看護小規模多機能をどのように整備していくか
- ・ あんしんすこやかセンターの業務量が増大する中、行政の支援が必要。
- ・ NPO 法人などをもっと活用してはどうか。

### ○ 施設のあり方

- ・ サービス付き高齢者向け住宅につき、神戸市役所内で部局の壁を越えて、対応していてもらいたい。
- ・ サービス付き高齢者向け住宅を老人ホームと思っている方も多い。まちづくりと一緒に取り組んでいくこと、イラストなどで分かりやすく可視化していくことが必要である。

### ○ 人材の確保

- ・ 介護人材の確保に関し、学校の先生が生徒に、「介護の世界は大変だよ」と言ってしまうと聞いている。学校を含めた対策を。
- ・ 介護職員の人権を守るという視点も加えられたい。
- ・ 人材の確保は、多職種の人材をすべて確保していかないといけない。

### ○ 給付と負担のあり方

- ・ (介護報酬は、国の問題ではあるが、) 介護報酬の減額改定により倒産する事業者もある。介護報酬は一定必要な経費という理解のもと、必要額を確保いただきたい。

### ○ 地域共生社会に向けて

- ・ 神戸市には、市民福祉条例という全国の都市に先駆けて作成した財産があり、市民が生活あるいは社会の安全・安心を自分達でつくっていき、能動的に主体的に係っていくということを何十年も前に既につくってきたという特長がある。介護保険と地域福祉計画とをどのようにリンクさせる可などを念頭に置いて、次期計画の策定を。
- ・ 地域共生社会の実現に向け、まちづくりとリンクしていくこと、包括的なすり合わせが必要。
- ・ 高齢者だけでなく、地域の人すべてを対象とする方向で、地域づくりの絵を描いていくこと、次期計画では、そのための頭出しをしておくことが必要。
- ・ ボランティアをすると、日本人の気質からお返しをする人が多く、ボランティアの継続ができなかった経験がある。行政から「お返しとか気を遣わなくてもいい」旨の情報提供をしていくことで、もっと気楽な共助の社会の実現を
- ・ ボランティアをやりたいが、何をしたらよいか分からないという声を聞く。それらの方をボランティアに参加してもらえるようにすることで、介護予防にも結びつく。
- ・ 例えば、介護施設のボランティアのメニューを提示していただいたら、ボランティア活動に踏み出しやすいのでは。

## ○平成 29 年度第 1 回企画・調査部会におけるご意見

8 月 9 日に開催した「企画・調査部会」において、委員の皆様よりいただいた意見は以下の通り。

### ○ 自立支援・介護予防に向けた取り組みの推進

- ・ アンケート結果では、介護予防・健康づくり活動へ参加していない高齢者が約 8 割。地域で体操に取り組むことにより効果が得られた他自治体の事例もある。介護予防に参加した方の効果が上がっているデータをまとめて、そうしたデータを提供していくなど、より多くの高齢者が介護予防事業に参加し、健康寿命延伸につなげていくような取り組みが必要ではないか。
- ・ 口腔機能の維持は介護予防の点で非常に重要。
- ・ 口腔低下は、将来、肺炎にもつながるなど問題が大きい。ボイストレーニングなどが口腔機能の低下防止に効果があると聞いているので、介護予防に取り入れるとよいのではないか。
- ・ スポーツジムに通う高齢者が多いので、介護予防の施策の一つとしてスポーツジムの活用も検討してはどうか。
- ・ 特に男性の場合、スポーツジムや筋力アップが好きな方が多いので、閉じこもり対策としても有効と思われる。これらの割引など何かインセンティブを付与するような仕組みも検討してはどうか。
- ・ 総合事業について、神戸市では訪問型 C は実施していないが、実施している自治体において成果が出てきているところもあるので、実施を検討されたい。

### ○ 在宅生活の継続に向けた支援

- ・ 医療介護連携を進めていくためには、今年度、全区に設置が完了した医療介護サポートセンターをしっかりと育てていく必要がある。
- ・ 神戸市医師会で、医療に関する地域資源が検索できるシステムを開発した。こうしたシステムを医療介護サポートセンターで活用していくことにより、大きな効果が上がっていくものと考えている。
- ・ 医療介護連携を進めていくためには、大規模・多機能な機能強化型訪問看護ステーションが必要となってくる。機能強化型のステーションを増やしていくための取り組みが必要。
- ・ リハビリ専門職も、地域への貢献が求められている。リハビリ専門職の地域ケア会議への出席など、その活用を進められたい。
- ・ 50～60 代で、家族の介護のために離職した人がなかなか復帰できない。「介護離職ゼロ」に向けた施策を議論していかなければならない。

### ○ 人材の確保

- ・ 介護職の人材不足が深刻になっている中、介護の資格がない人たちも身近なところから参加していけるような仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ シルバーカレッジは、元気な高齢者が積極的に学習に参加しており、よい取組だと思うが、卒業後、地域に入っていくことが難しいという声を聞く。また、東灘区、灘区からの参加者が少ないので、卒業後も継続して、また、市域全域で取り組んでいけるような仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ 介護人材の育成の観点から、法人や事業所の枠を超えた研修等を実施していく必要があるのではないか。
- ・ 介護職員の離職の原因の一つに腰痛がある。リフトや介護ロボットの活用を推進されたい。

### ○ 地域共生社会に向けて

- ・ 地域で本当に困っている人たちを助けるための仕組み、体制をどのようにつくっていくのかイメージしておくことが重要。
- ・ 地域課題について、まちづくり・地域福祉・介護など部局間で連携して対応していくことが必要。
- ・ 地域活動への参加者数は、地域により差が大きい。地域差をなくしていく工夫が必要。
- ・ ボランティア等に参加した人に、ポイントや割引などのインセンティブを付与するような仕組みも検討してはどうか。
- ・ 高齢者の社会参加について、生活圏域、参加可能な時間帯といったことをこまやかに分析していくことにより、参加につなげていく必要があるのではないか。また、ボランティア以上職業以下のような新たな働き方も発信していく必要があるのではないか。